



# 絆の草中

# ③

草野中学校だより

発行責任者 校長 丹野 英雄

第3号 令和2年6月22日発行

## 【水難地蔵尊供養】

毎年、7月になると横川畔赤沼橋に建立された水難地蔵尊の供養が行われます。かつて、横川で海水浴後の沐浴やシジミ採りの時に深みに足をとられ、5名の児童生徒の尊い命が失われるという悲しい水難事故が立て続けに起きました。

そこで、当時の草野小・中学校PTAが、二度とそのような悲劇を繰り返さないように、そして、亡くなった方々の冥福を祈るとともに児童生徒の水難事故の皆無を願って、昭和38年から供養を続けてきました。

地蔵尊建立以来、地蔵尊に守られているかのように水難事故は両校とも起きていません。今年の夏も悲しい事故が起きないように、草野小・中学校PTAで児童生徒の安全を祈願しながら、7月3日（金）午後4時30分から現地にて供養を執り行う予定です。

5月21日（木）からの分散登校による学校再開から約1ヶ月が過ぎました。6月1日（月）から従来の学校生活を送ることができていますが、6月12日（金）に開催した生徒会総会は、全校生徒が一堂に会する状態を避けて、放送での実施としました。総会当日まで、生徒会本部役員の皆さんをはじめ、常任委員会や学級の代表の皆さんが中心となって、計画的に総会要項の作成や議案書審議を進めてきました。そして、総会では、各常任委員会と連携・協力のもとに、昨年度後期の反省を踏まえて、今年度前期の活動計画や予算案等の審議がなされました。

どこの組織でも、目標を達成するために計画を立てます。計画を立てたなら、実行が求められます。限りある時間を有効に使い成果を上げる努力をします。そして、一定の期間が過ぎたら、取組状況を振り返って確認し、必要に応じて改善を図っていきます。目標達成は、そうしたプロセスから生まれます。計画がP(plan)、実行がD(do)、確認がC(check)、改善がA(action)、目標達成に向けたこうした一連の流れはアルファベットの頭文字をとってPDCAマネジメントサイクルと呼ばれています。本校の生徒会も、こうしたプロセスを経ながら、さらなる発展を目指してほしいと思います。



生徒会長が生徒会本部への質問に対して答弁している場面です。左奥で着座の2名が議長です。



校長講話の内容を目でも確認できるように配慮しました。

## 生徒会総会を放送で開催しました

# ありのままの自分を、ありのまま受け容れている？

人は誰でも長所があれば短所もあります。できることもあればできないこともあります。それら全てを含め、自分を「かけがえのない存在」だと感じることができるでしょうか。そう感じることができる人は、自尊心が身に付いている人だと言えます。

近年、日本の子供の自尊心は、世界中でも特に低いとされています。その背景には、幼い頃の大人からの扱われ方や謙虚さを美德とする日本人独特の文化が影響しているとの指摘もあります。

13歳から29歳の若者を対象に2017年に実施した意識調査において、「自分自身に満足しているか」との問いに、アメリカ人の87%が「そう思う、どちらかといえばそう思う」と答えたのに対し、日本人は約半分の45.1%しかありませんでした。韓国、イギリス、フランス、スウェーデン、ドイツなどの他国でも平均は80%近くでした。また、「長所があると感じているか」との問いに、アメリカ人の91.2%が肯定的な答えだったのに対し、日本人は諸外国中で一番低く62.3%でした。

世界のどこの国や地域でも、生まれてから幼稚園・保育所に行くまでの間、つまり社会に属する前までは、周囲が抑えつけない限り、子供はみんな自尊心が高く、初めてのことにも果敢に挑戦し、自信に満ち溢れた行動をします。3歳くらいまでは、親も祖父母も子供を誉めて伸ばすからです。

ところが、日本では、幼稚園・保育所や学校に属したり勉強を始めたりした途端に、自尊心が低くなっていきます。親が子供に周囲と同じようにできることを求めてしまったり、親自身も他の母親や父親と自分を比較してしまったりするからです。

「這えば立て、立てば歩めの親心、歩めば勉強せいと言ひ」という川柳があります。生まれた頃は、あるがままの我が子が愛おしく、この上ない存在と受け容れていたのに対し、我が子が成長するにしたがって、より多くのことを求めてしまう切ない親心を表していると言えるでしょう。

ところで、幼い子供は、ヒーローごっこをする時、必ず自分がヒーロー役をしたがります。「今日は、ボクが怪獣をやるよ！お父さんがウルトラマンになってボクをやっ

つけて！」とは言いません。いつの時代も、どんな子供も、カッコいいウルトラマンに自分を投影し、正義に満ち溢れ、万能なウルトラマンになりたがります。女の子ならセーラームーンやプリキュアですかね。

しかし、真実の自分は、ウルトラマンやプリキュアでないことを経験を通して学んでいきます。「ウルトラマンだと思っていた自分」と「ウルトラマンではない真実の自分」のギャップに気づきます。そして、成長の過程で、「ウルトラマンではない自分」を受け容れる準備をします。

私たちは誰もがみんな、残念ながらウルトラマンではありません。上手くいかないこともたくさんあるし、誤解されることも、嫌われることもあるのが当たり前です。いつも優しく穏やかな自分でいられるわけではなく、「何なんだ！あいつ！」と腹を立てる自分もいます。人を恨んだり妬んだりひがんだりする自分もいます。

自分の中に存在する「目をそらしておきたい、なかったことにしておきたい、ウルトラマンではない自分…」受け容れたい自分を何とか受け容れようと、子供はもがきながら成長します。そのような時、そばにいる親や大人が「ありのままの自分でいいんだよ」というメッセージを発し続けてあげると、子供は「ウルトラマンではない自分」を受け容れることができ、自尊心も再び高まってきます。

外見、性格、長所や短所、学業成績、運動能力、ハンディキャップなど、全てひっくるめて「弱い自分も、ダメな自分も、自分自身だ。あるがままの自分でいいんだ。」と受け容れた子供は、何事に対しても積極的に取り組み、豊かな体験を積み重ねていく中で、さらに自信をつけ、自分ばかりでなく他者をも受け容れていくことができるようになります。つまり、自尊心が高い人は、自分を大切にするだけでなく、人への思いやりを持つことができ、ますます魅力的な人になっていきます。

自尊心が高い人とは、決して威張る人という意味ではなく、自分の欠点を認めつつも自分を受け容れ、人に対しても優しく、そして前向きに生きている人と言えます。「自分も他者も価値ある人だと思える」「自分も他者も好きだと思える」「自分も他者も大切に思える」全ての生徒がそういった感覚を持って生活できるように学校を挙げて支援していきたいと考えています。

## 【教育目標】

自ら学び、考え、正しく判断できる生徒  
絆を大切に、思いやりを持って行動できる生徒  
進んで運動し、心身ともに健康な生徒



〒970-0101

福島県いわき市平下神谷字宿25番地

TEL 0246-34-2208 FAX 0246-34-2771

E-mail : kusano-jh@city.iwaki.lg.jp